

第6回熊本県腎不全看護研究会

アンケート集計結果

189名中 165名アンケート回収

日時 2010年2月7日(日)9:45～

場所 済生会熊本病院 外来がん治療センター

4F コンベンションホール

【情報提供】9:45～ DVD 上映

【特別講演】 10:00～12:00

『慢性経過をたどる患者さんの QOL における

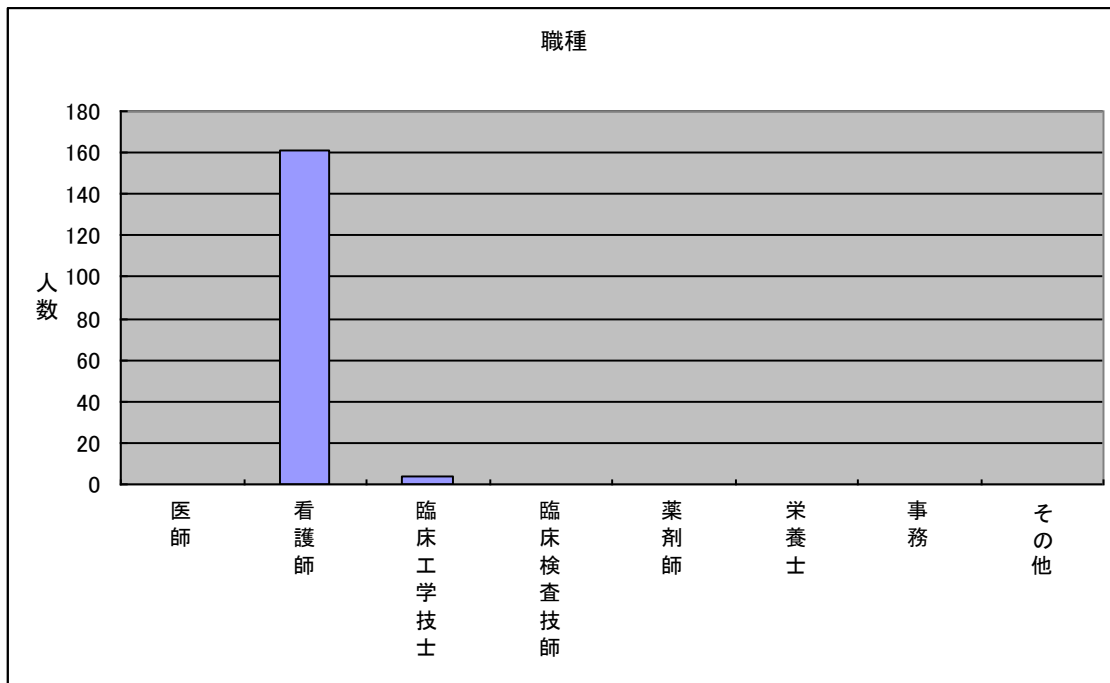
看護師の役割—自立・創造・社会貢献—』

静岡県立大学 看護学研究所教授 看護部看護学科教授

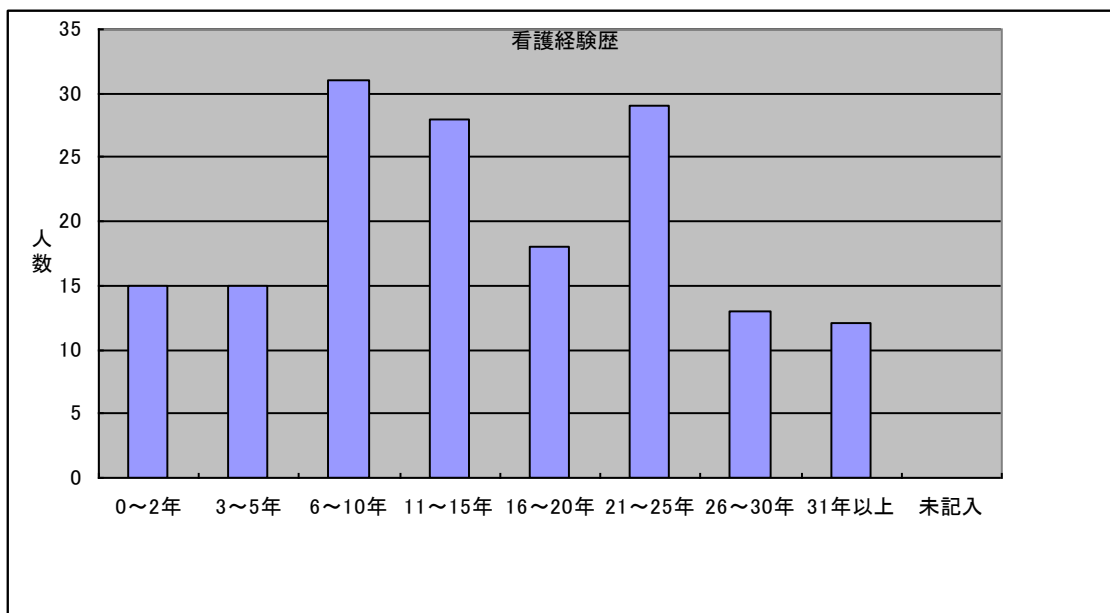
紙屋 克子先生

研究会アンケート結果

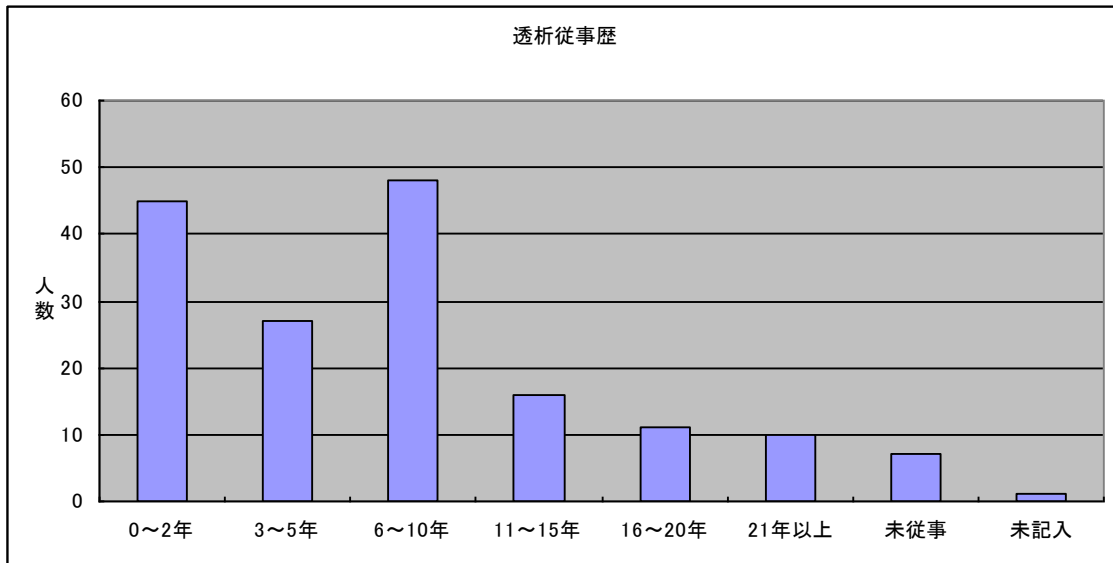
Q1：職種について



Q1-※：看護経験歴

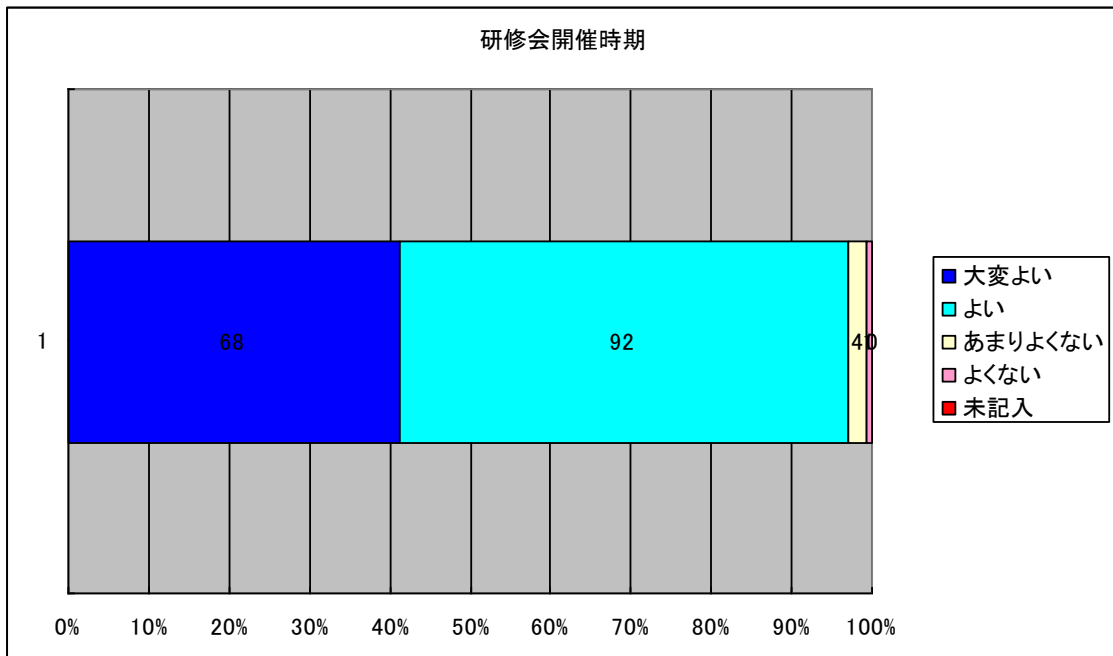


Q2：透析従事歴

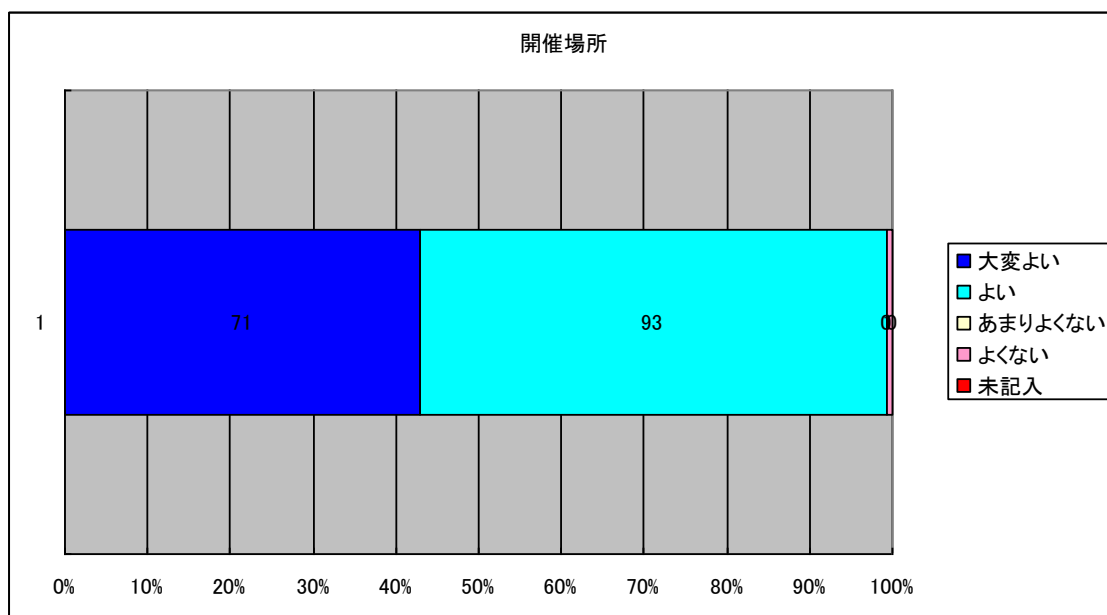


Q3：全体の構成、内容についてお伺いします。

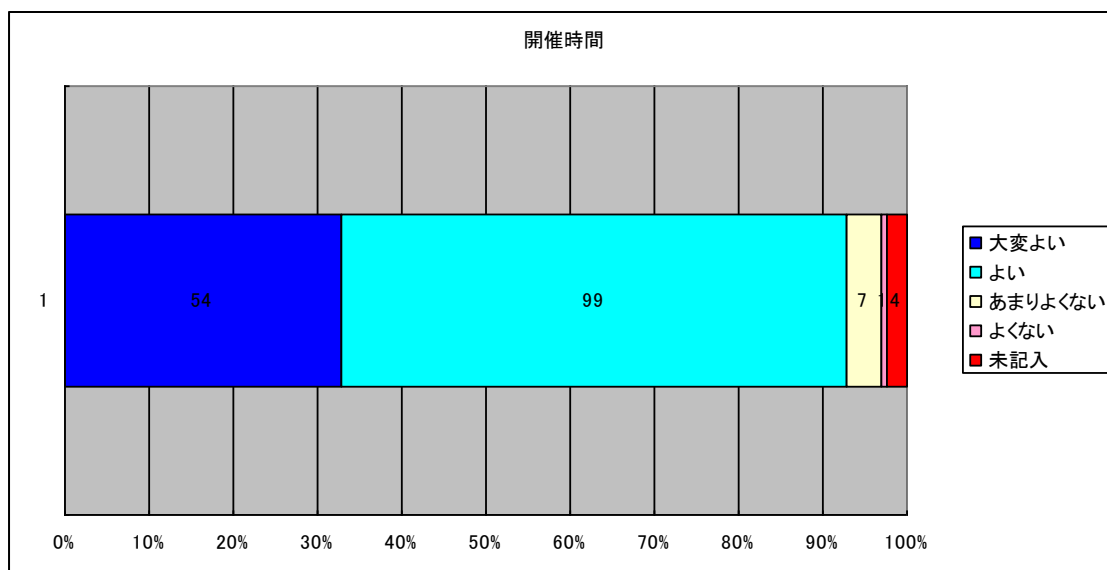
Q3-1：研修会の開催時期



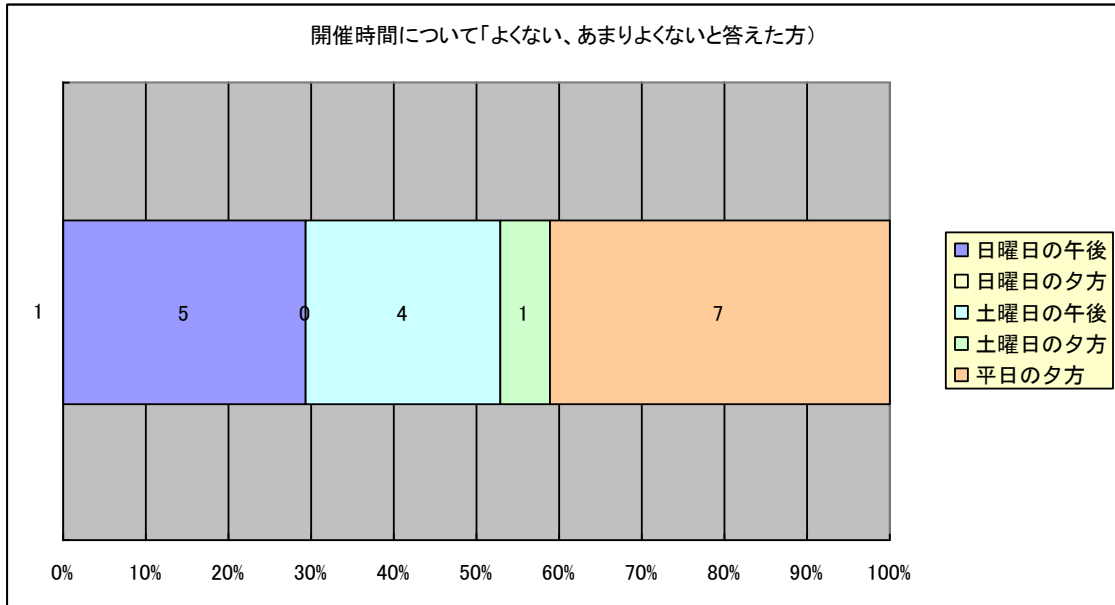
Q3-2：場所について



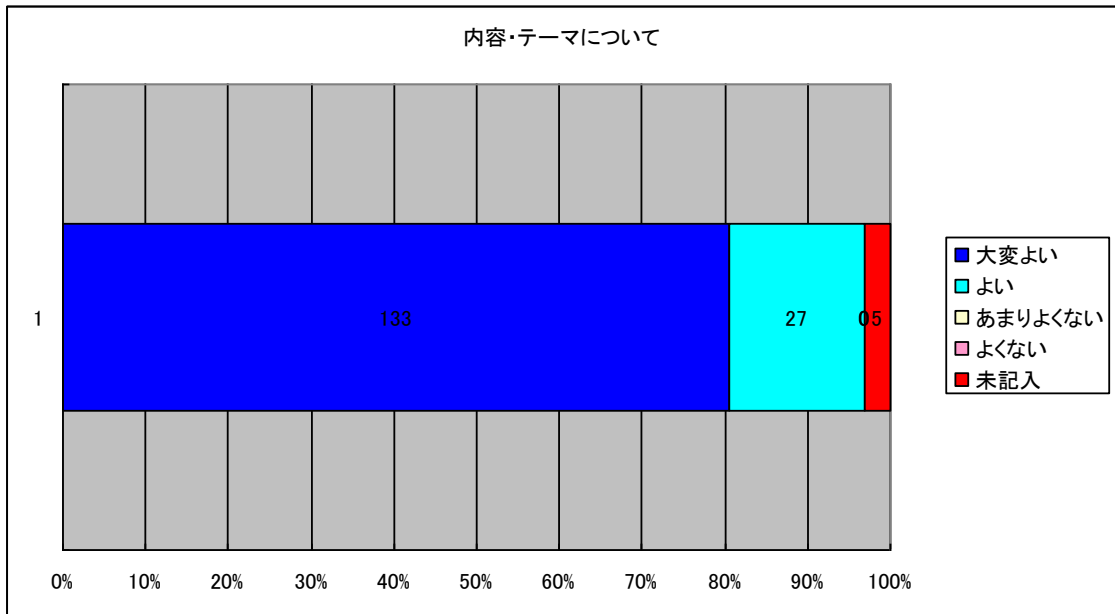
Q3-3：開催時間について



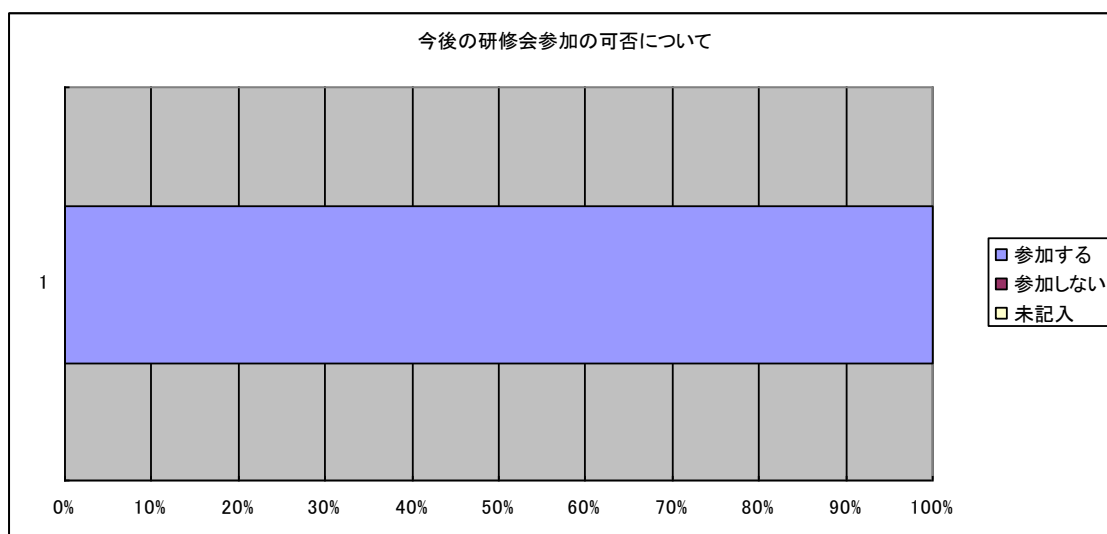
Q3-3：開催時間について(よくない、あまりよくない)



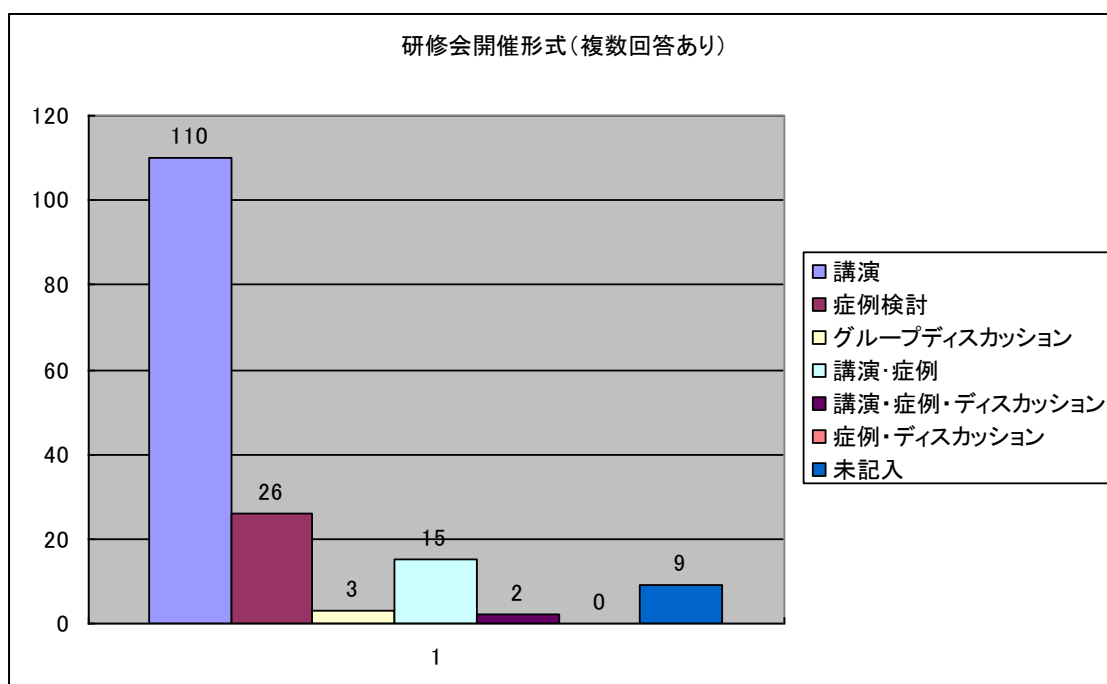
Q3-4：内容・テーマについて



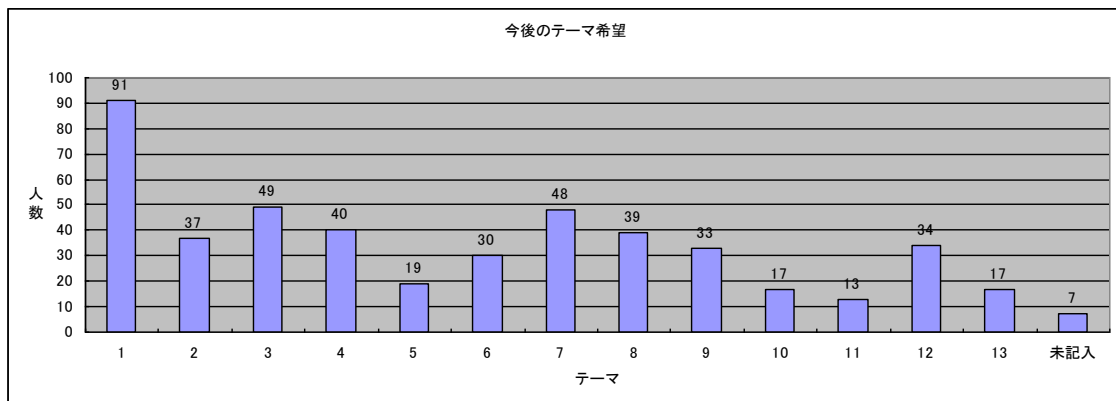
Q4：今後もご参加いただけますか？



Q5：開催するとすれば、どのような方法を望まれますか？



Q6:今後取り上げてほしいテーマがあれば御記入ください。



- ①患者教育、患者指導（自己管理）
- ②糖尿病、糖尿病性腎症
- ③栄養指導、食事指導（実際の指導について）、食事管理
- ④記録、看護記録
- ⑤災害時訓練（Ns の対応）、災害対策
- ⑥感染、透析室の感染予防
- ⑦認知症対応、認知症患者とのかかわり方
- ⑧透析中のリスク→症例、対策など
- ⑨医療安全、リスマネジメント、医療事故（トラブル、記録）
- ⑩長期留置カテーテルについて
- ⑪腹膜透析、看護について
- ⑫スタッフと患者のコミュニケーションの取り方
- ⑬コーチング
- ⑭未記入

Q7：上記以外で取り上げてほしいテーマ等あれば記入ください。

- ・ 透析患者と、心疾患のある患者—透析中の不正脈との関連
- ・ フットケア関連
- ・ 技士・Nsとの連携
- ・ 技士による透析液について
- ・ 高齢透析患者の在宅を支える社会資源の活用
- ・ 家族を含めた関わり「家族看護」
- ・ 透析患者の生きがいをサポートする
- ・ 透析患者が尊厳を持って人生を全うすることへの援助について、看護の立場でディスカッションする
- ・ 透析患者とうつ又は精神疾患
- ・ 心理学や専門領域の人の話
- ・ クリニカルパスの実際
- ・ PAD ケア
- ・ 透析における看護診断（CKD）

Q8：その他、意見、要望、改善点等ありましたらお聞かせ下さい。

- ・ 締めない姿勢を心掛け看護していきたいと思います。大変貴重な講演ありがとうございました。
- ・ 今回の研修、大変おもしろく聞かせて頂きました。分かり易く、正直初めはあまり興味ない議題だったのですが、こんな看護にも携わりたいなと思いました。本当にありがとうございました。
- ・ 今回の講演では、看護の力で回復していく人間の身体や心があり、そのことが関わる人、本人への喜びとなることがわかりました。とても感動的なお話が聞けて良かった。
- ・ とてもいい研修内容でした。ありがとうございました。
- ・ 座長が質問するから時間切れ、聞きたいことがきけなかった。
- ・ 今回今までと違って、案内の方も多数おられ、玄関も明かりがついていてとても良かったです。
- ・ 今回の講演会は、自分の考えを改める良い機会になりました。勉強させて頂きありがとうございました。
- ・ とても感動的な話でした。意識障害、植物状態のある患者は、意識がないと思われがちで、看護も治療も諦められやすく、介護に大きな負担をかけている。今日の話が聞けて、わずかな望みでも諦めない看護というので、いい話が聞けた。
- ・ まだまだ、紙屋先生の実際と NOWHOW をお聞きしたかった。
- ・ 看護の原点も思い出させられる内容で、本当に講演を聴くことができよかったです。

- 実際現場で困難にぶちあたっています。本日の話を聞けて実際にどう動くべきかを理解することができました。ありがとうございました。
- ICUで勤務していてもCPA、蘇生後のPtさんに何かできることないかと考えていました。こんなことができたらすばらしいと思います。
- 感動する講演でした。ありがとうございました。
- 今回は、大変感動する紙屋先生のお話でした。今後の仕事に大きな刺激となりました。
- 今回の講演とても良かったです。笑いあり、涙ありで感動し、内容的にもとても勉強になりました。腎不全看護のみにこだわらず、今回のように他の専門領域の分野の方のお話をもっと聞く機会があればと思います。

アンケートへのご協力ありがとうございました。

第6回熊本県腎不全看護研究会 Q&A

日時：2010年2月7日（日）

時間：10：00～12：00

講演内容：「慢性経過をたどる患者さんの QOL における看護師の役割

—自立・創造・社会貢献—

講師：静岡県立大学 看護学研究所教授 看護部看護学科教授

紙屋 克子 先生

Q) 経口摂取に取り組むには？

A) 1. 姿勢・体位を保つことが出来る。(座位、立位、前傾姿勢がとれること大切)

2. 口腔ケアが大切であり、舌の動きを見ることが大切である

・舌のローリングが出来ている。

・頬の筋肉の圧で食べ物を動かす

・十分に口が開くかどうかを見る

・口腔内のマッサージ、咀嚼、発声、呼吸のコントロールなど総合的にみた

ケアが大切である

よって、全体を整えることが大切である。

ペグは入れるのは簡単だが、すぐにはとれない。

栄養管理をしながら口腔ケア、舌の動きを見ていくとよい。

意識障害のある人は口のストレッチから始めて整えていく。足を床にピタッとつけることも大事。

経口摂取に取り組むには、

1、体位 2、呼吸コントロール 3、口腔ケア がポイントとなる。

Q) 患者のために何が出来るか考えることが大事だと思いました。

生活予後診断について詳しく教えて下さい。

A) 医師がエビデンスとしてきた MRI、CT での脳波（後遺症がある、萎縮している脳はよくなる）はその人の生活像は反映されていないが、看護者が介入することで結果的には患者が食べ話すことが出来る。

看護側の責任もあるのではないかと？生態管理者になってしまっている。

意識障害の患者をみるきっかけになったのは、脳腫瘍の患者の手術後に家族から

「こんなの治してもらったうちにはいない。」と言われたことから。

そのことでひとつでも患者に人間らしいことを残してあげたいと思った気持ちから。

<看護の役割>

人間らしいこと

アイス1口でも食べることが出来るように援助していく

食べさせることで他の機能が引き上げられることがわかった

健康な人間と同じことをすればよいのだと気がつくようになる

人としてのプロセスをふんでみると患者の変化が見られるようになる

<生活の視点から見て>

- ・病気からみるのではなく生活支援者として考える

患者の生活予後診断

看護の療養上の世話

- ・患者の気持ちを考える
- ・人間を信用する
- ・患者は言葉ではなく体で訴える
- ・支援者として患者をみる